

香川県観音寺市

大平正芳記念館

平外四喜



The Masayoshi Ohira Memorial Hall



大平正芳(おおひら まさよし、1910～1980年)元総理は、香川県の農家に生まれた。苦学して大蔵省(現財務省)に入り、戦後、自由党(現自由民主党)から政界に進出し、池田勇人首相の懐刀として高度経済成長政策を支えた。昭和47年の外相時代には日中国交正常化を成し遂げた。

昭和53年首相となり、田園都市構想、環太平洋連帯構想など、すぐれたビジョンを提示したが、55年の衆参同日選挙の遊説中に病に倒れ、志半ばにして死去した。

政治生活の忙しさのなかでも、読書をするのを忘れず、また故郷と家庭と友人をこよなく愛した。「生活は簡素に、思想は高く」という大平のモットーは、その生涯を端的に物語っている。

故郷を出て大蔵省へ

大平は、明治43(1910)年3月12日香川県三豊郡和田村(現観音寺市)に、父利吉、母サクの3男として生まれた。和田村立大正尋常小学校(現豊浜小学校)、県立三豊中学校(現観音寺第一高等学校)を経て、高松高等商業学校(現香川大学)に進んだ。この時期、キリスト教の強い影響を受け、聖書への関心は生涯つづいた。

昭和8年東京商科大学(現一橋大学)に進学し、苦学して卒業する際、故郷の先輩・津島寿一(当時大蔵次官)の引きで大蔵省に入り、のちに首相となる池田勇人の知遇を得たことで、その後の人生の方向が決まった。

大蔵省では、横浜・仙台に勤務するほか、中国の張家口に出向したが、終戦直後の激動の昭和24年、政界初当選と同時に蔵相に就任した池田勇人に求められ蔵相秘書官となった。3年後の27年には自らも香川2区で自由党(30年に日本民主党と合同し自由民主党となった)から立候補し、初当選を飾った(以後11回連続当選)。



衆議院議員に初当選(昭和27年10月1日)

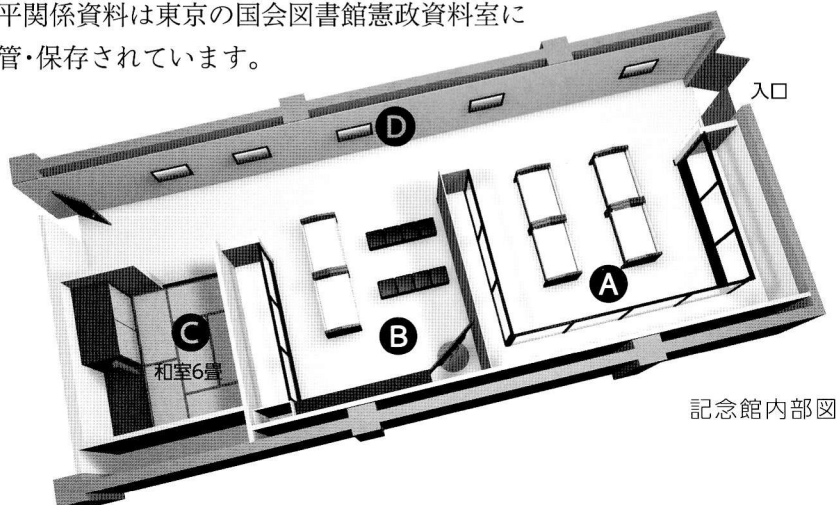
大平正芳記念館

大平正芳は、1910年3月12日、香川県三豊郡豊浜町に生まれました。「記念館」のある観音寺市は、大平が少年時代の旧制中学校生活を送り、長じて政界入りをしてからは、政治活動の本拠としたところです。

大平は生地である観音寺の風土や伝統、人情をこよなく愛し、政務・公務多忙になってからも帰省を楽しみとするとともに、同郷の子弟の訓育にも心を傾け、1965年10月自らの事務所に「大平文庫」を開設し、約8千冊の図書を寄贈しました。

1985年6月、「財団法人 大平正芳記念財団」が大平の5回目の命日を機に設立され、遺族から提供された「大平文庫」を改装のうえ、事務所は「大平正芳記念館」（以下、旧記念館）として、大平の遺品や関係資料を収集・展示して、広く一般の研究に役立てることにしました。

旧記念館は地元の人のみならず、全国から多くの研究者が訪れ愛されてきましたが、施設の老朽化もあり、2015年3月31日惜しまれつつ閉館となりました。そして、この度観音寺市はじめ大平の遺徳を多とする多くの人々のご支援・ご協力を得て、その功績を称えるために、2016年11月5日新たなスタートをきることになりました。なお「大平文庫」は現在香川県立図書館に、大平関係資料は東京の国会図書館憲政資料室に移管・保存されています。



- A 写真や資料によって政治家・大平正芳の生涯をたどるコーナーです。
- B 大平正芳の書き残した色紙、書籍などで在りし日の大平正芳をしのぶコーナーです。
- C 旧選挙事務所の大平正芳が起居した和室を復元したコーナーです。
- D 大平正芳は多くの人々によって支えられて来ました。そのうち6人の恩師・恩人たちを紹介しています。

●記念館概要●

記念館は大きく3つのコーナーに分かれています。

まず大平の生涯を、「大平正芳を育んだ郷土と時代」、「大平正芳の戦前と戦後—大蔵官僚から政治家へ」、「政治家大平正芳—保守本流を行く」、「田中内閣外相として—日中国交正常化」、「大平政治の展開—首相として」など首相在任中を含め、さまざまな写真・資料等でその政治家としての足跡をたどっています。

次に、大平の揮毫になる多数の色紙、当時の礼服のほか、文人政治家として知られる大平の多くの著作やDVDを手にとることができます。

さらに大平が帰郷の際、起居した和室を復元・保存しています。



展示ブース



色紙コーナー



和室

●記念館収蔵品●

大平書



大平家から寄贈された大平元総理の政治家としての足跡をたどる写真や関係資料、愛用の遺品などが展示・収蔵されています。そのほか吉田茂・池田勇人両元首相や郷土の先輩・津島寿一先生の資料や写真も収蔵されています。

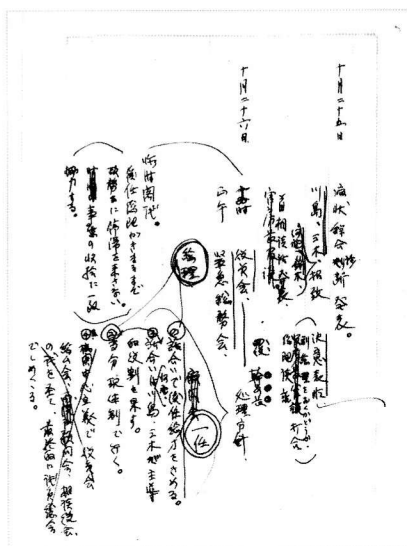
写真下の額装は、1972年9月29日、日中共同声明調印の日、北京市中南海の宿舎で大平が作詩したもの。日中国交の裏面史を語る貴重なもので、二階堂進先生より寄贈されました。



愛用の文房四宝と色紙



額装（一九七二年九月二十九日）

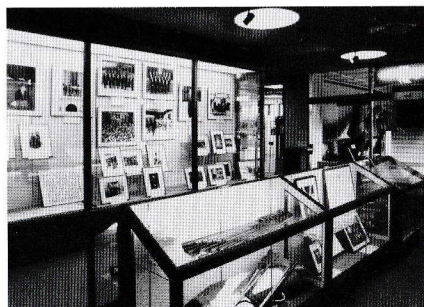
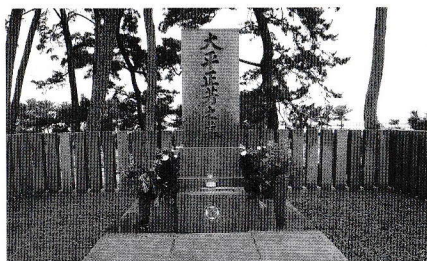


大平メモ（池田首相辞意表明・一九六四年十月二十五日）

豊浜町・大平記念室

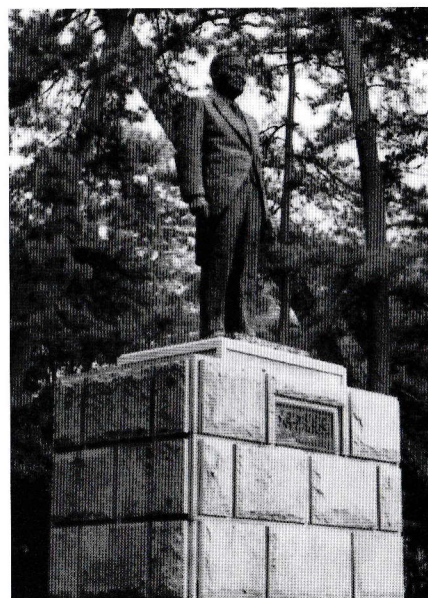
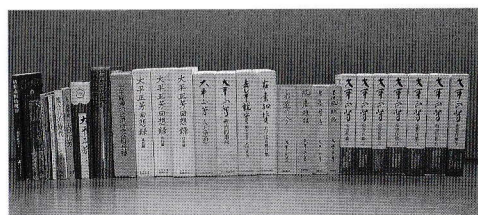
観音寺市豊浜町(生誕地)は、市中心街から車で約10分。J R 観音寺駅からは、予讃線で松山方面へ1つ目の豊浜駅下車。

豊浜町内の大平の関連施設として、豊浜支所(旧町役場)に隣接する中央公民館に「大平記念室」があります。また、国道11号線沿い(町内では大平記念通り)の豊浜八幡神社に銅像、燵灘に面した松林の一角にお墓があります。



大平正芳の著書

- 『財政つれづれ草』如水書房(1953)
- 『素顔の代議士』20世紀社(1956)
- 『春風秋雨』鹿島出版会(1966)
- 『旦暮芥考』鹿島出版会(1970)
- 『風塵雜俎』鹿島出版会(1977)
- 『私の履歴書／大平正芳』日本経済新聞社(1978)
- 『複合力の時代』ライフ社(1978)
- 『永遠の今』鹿島出版会(1980)
- 『硯滴』
- 『大平正芳全著作集』全7巻、講談社(2010～12)



保守本流を演出

昭和35年、池田内閣誕生とともに内閣官房長官に就任。安保騒動ですさんだ世相と人心を收拾する「寛容と忍耐」の池田政治の演出家として、所得倍增計画による日本経済の発展の基礎をつくりあげた。

昭和37年に外相、42年に自民党政調会長、43年に通産相など要職を歴任し、46年に前尾繁三郎の後を継いで、「宏池会」の第3代会長に就任した。

日中国交回復を実現

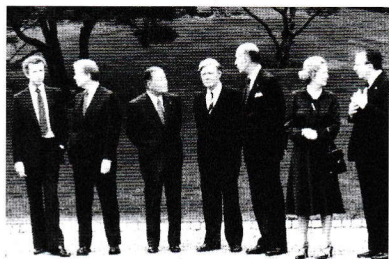
総理総裁をめざし、昭和47年の自民党総裁選挙に、田中角栄、福田赳夫、三木武夫と並んで立候補したが、第1回投票で3位にとどまり、田中内閣実現に協力した。田中内閣では2度目の外相に就任し日中国交正常化に取り組み、47年9月に田中首相とともに訪中、毛沢東主席、周恩来首相との交渉を経て、この歴史的な大事業を成し遂げた。その後の石油危機下では、田中・三木両内閣の蔵相として困難な財政運営に挑み、さらに福田内閣時代には自民党幹事長に就任し、政権を支えた。

大平政治の実現

昭和53年11月、自民党総裁選挙に再び出馬。予備選挙で大勝、第9代自民党総裁となり、国会での首班指名を受けて第68代首相に就任した。

内閣の政治姿勢を「信頼と合意」と定め、田園都市国家、環太平洋連帯、家庭基盤充実、総合安全保障など、21世紀を展望する透徹したビジョンを打ち出すとともに、行財政改革に取り組んで「小さな政府」の実現につとめた。

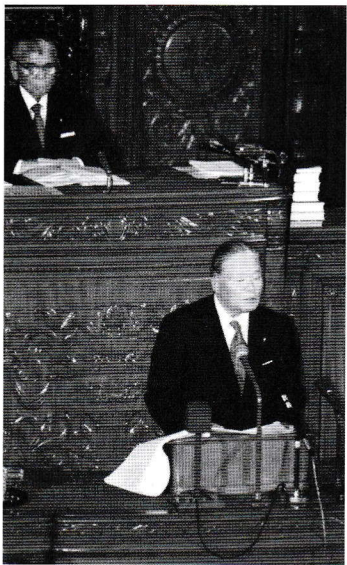
対外面においても、東京サミットを主催、また米中豪はじめ多くの国との友好を深め、わが国の国際的評価を高めた。



東京サミット（先進7カ国首脳会議）。各国首脳と迎賓館の庭を散策する。（1979年6月28日）

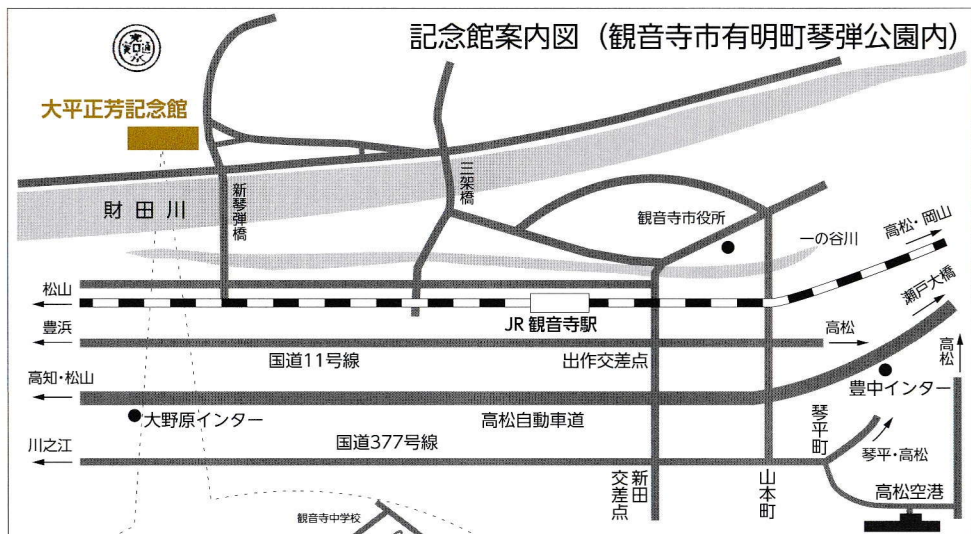


日中共同声明調印（日中国交正常化）。
右端・周恩来中国首相（1972年9月）



衆議院本会議場で初の施設方針演説。後ろは保利茂議長（1979年1月25日）

昭和54年10月の総選挙では、一般消費税問題もあり、自民党は敗北、40日抗争など党内は混乱の極みに達した。11月上旬ようやく第2次大平内閣が成立したが、党内対立の後遺症により、翌55年5月16日衆議院における内閣不信任案が可決され、解散・総選挙となった。5月30日、初の衆参同日選挙の冒頭、大平首相は新宿で演説中に胸の痛みを訴えて入院、6月12日心筋梗塞のため死去、享年70。正二位、大勲位に叙せられ、菊花大綬章を授与された。



豊浜・大平正芳記念室案内図



- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
- 入館料 高校生以上300円 小中学生150円
小学生未満は無料
- アクセス 高松自動車道大野原ICから車で12分（約6km）、
さぬき豊中ICから車で20分（約8km）、
JR予讃線・観音寺駅下車、レンタサイクルで約10分、
JR観音寺駅からタクシーで5分（約2km）
＊駐車場（無料）あり。＊レンタサイクル100円／1日

- 大平正芳記念室（豊浜中央公民館内）
香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-1
電話（0875）52-1206

大平正芳記念館

〒768-0062 香川県観音寺市有明町3番36号（琴弾公園内）

電話：0875-23-0055 FAX：0875-24-8633